



大伴金道忠孝圖命

~ 13
2692
6



13
2692
6



浪華好華堂主人著編

同 柳齊重春畫圖

大伴金道忠孝圖會

後編
全六冊

浪華書肆

岡田羣玉堂
出田群鳳堂

大伴金道忠孝圖會後編叙

忠と孝とは車の両輪の如く人の行を
先好むなく忠より重んじられはまじき忠は孝
子の心も素むと既先聖の格言なり。孝は
孝人問し生類づきまの勉めあり。夫中孝道
凡が孝れ如き孝の意より高き白雲が如き
忠は極むるおきみの花雅行む忠孝を

浪華好華堂主人著編

自大業を存せしむ。惜み難敵を以て憂ふ
はたけり。諸君がせん。或は歎かす。いふ。白
逐て人殺す。民怨む。其の緒を釀ぐ。女は
ひた害國をなす。懼む。其の勢を極む。
危し。難。既ふ。女其の極をなす。其の
憂。然き。む。其。梅子。池。中。の。其。の。誠。を。免。れ。む。
その除村國男依人友吹負。梅山。其。果。は。其。

傳。教。三。行。得。方。如。詳。一。載。ら。れ。る。世
臣子の規則。既ふ。其。輯。の。向。を。發。見。
今。向。の。嗣。を。自。を。結。ぶ。實。の。野。真。子。が
一。大。奇。の。書。如。架。

一。時。嘉。永。の。乙。酉。夏。冬。の。日。

意。の。家。

水。道。人。領。印。



壬申之乱屬
 天武定大和
 河内經營一
 方軍功多

第壹のふけの
 大伴吹負



高市皇女

人生莫作
 婦人身
 百年苦樂
 由他人
 白居易

命婦

金蓮忠孝圖會後篇一



大伴金道忠孝圖會後編總目錄

卷之壹

大海人王東國募勢并赤軍防禦子賦
 系將西國募勢并金鳥稱虛病欺連男
 撞擊子討若備廣邦并阿孫栗隈賺百足
 磐子若備廣邦討國
 大海人王野上接陣并高坂王及法王降赤
 春瀨財攻并安珠并久米造筑戰紀
 河名惠川合戰并去收韓國討收奉財
 韓國收奉財を討國
 春瀨造海勢兵并赤軍赤勢出疎唯備
 河名芝池合戰并金倭討去收韓國
 金倭去收の韓國を討國
 和名宗良坂合戰并大伴赤負孫男
 葛籠山合戰并坂上鏡毛戰紀

卷之二

鉦鉤伏兵伐赤軍并大野早安夜討
 濃大上川合戰并大友方決於戰死國圖
 玉水大合戰并物部日向勇戰陣没
 吹負が矢先小物部日向討死の圖
 有荒山及安川合戰并土師千島戰死
 大友皇子出陣并十市皇女貞死
 皇子出陣妃節小死一人國
 江名勢田合戰并村國男依討智尊
 兩軍大相戰栗津原并大友皇子自殺
 徳乃大小系並大友皇子自盡一人國
 天武天皇即位并飛鳥宮造營
 攜白良養育幼王并金道九幼稚奇行
 金道九幼稚小七戲並小指胡麻と飛越國圖

卷之三

金道丸新指盜賊 丹生捕根率等
 龜山太泉再夸雅明 雅明義遠太刀
 金道丸土庫の内なる賊を捕ふ圖
 龜山父子闘賊 佐藤城山塞 遊近舊友
 龜山父子山賊 したる人圖
 龜山坊百夷草屋 友推謀復備
 助野狐友童大懲 醉狂衆士
 金道丸本免若無頼の士と闘ふ圖
 白鹿活効 主來歴 金道丸階担 金鳥
 白川堤少 金道丸真鳥と格り人圖
 説往事 虎形 練金鳥 吳孤救天伴主位
 吳孤盡惑 千足家士 植雅明 洋勅 批將
 金鳥催孤將 植雅明 討白老猪
 雅明將小大猪と討ふ圖
 石虎形捕夜盜 雅明止金鳥出馬

卷之四

茅城山若公戦 大友勢敗軍
 茅城の山塞 小大友勢 敗軍の圖
 虎形燒茅城 山樹木 金道丸 討虎形
 金道丸遠矢小虎形と射る圖
 避金鳥出馬 金道丸 王位 拔落
 金鳥改名 雅明 築新城 勅 奏修
 湯の嶺の殿舎 結構と盡る圖
 妖僧道智弄幻術 美多百濟 探負物
 春海 創輕寺 天竺 行幸 金道丸 佛費由目
 赤毛川 遊び小金道丸 州壁 王の若君と救ふ圖
 金道丸 乞服 改名 栗隈 謀 美鳥
 道智修法 真多殺 愛妻
 密書 紛去 不図 櫻内 侍 美多 小殺 向 圖
 藤井 奪密書 逐電 栗隈 密上 洛
 雅明 脱密 劍由 來 道智 偷 熱 田 神 室

卷之五

金道擒道智并大友真多隱謀參頭
 美多宇佐宮社系并大友皇子日天討美多
 真鳥皇子の灵小松山に於て
 官軍西國下向并大友勢出張
 内浦濱合戦大友勢敗軍
 内浦の濱小松山若勇戦の圖
 美多之山出張栗隈十面埋伏
 永軍敗大友勢美多并大友力戦
 大友美多血戦永軍敗走の圖
 永軍攻大友出城并佐伯連男弓撃
 永軍攻大友本城并金道斬敵珠水
 雷火焼兵糧并若陷落金道討佐伯
 金道敵珠の首見と極刑を圖
 金道討美多復仇并大伴家本領安堵
 天誅道美多并美多金道討美多圖
 通計七十一條總目錄畢

大伴金道忠孝圖會後編卷之壹

目錄

大海人王東國募勢并京軍仿禦手賦
 京將西國募勢并金烏称虚病敗連男
 樟磐手討吉備廣邦并阿蘇栗隈賺而足
 磐手吉備廣邦と討圖
 大海人王野上移陣并高坂王及諸王降恭
 春衝賊攻高安城并久米塩竈戦死
 河及惠川合戦并壹岐韓圃討坂本財

韓圃坂本財代討圖
 春衝淡海勸義共并藤原勢出陣准備
 河及芦池合戦并金倭討壹岐韓圃
 金倭壹岐の韓圃と討圖
 和及奈良坂合戦并大伴吹負謀畧
 鳥籠山合戦并坂上熊毛戦死

大伴金道忠孝圖會後編卷之壹

浪華好花堂野亭著編

大海人王東國募勢并京軍防禦手賦

孟子曰得道者多助失道者寡助寡助之至親戚畔之多助之
 至天下順之以天下之所順攻親戚之所畔故君子有不戰戰必
 勝矣宜ある哉先哲の格言毫髪も違ふ所なく。偕も大海人親王と
 芳野を落させし東國不到の処追々御勢弛泰し今人雲霞の如
 死大軍とかり親王と勢別来名の郡家御陣と居り此所より軍戦の
 御評議とくぐり是より以前滋賀の都の大友皇子崩我赤兄以下五
 人の大臣未だ勸不任せ大海人親王と亡ひなると吉野へ征兵と差向ふ
 親王御校落の後たりを軍兵とも手と立すと滋賀の都へ引返す

と奏り、これを皇子と背く五人の大臣も案ふ相違して、其遅るるを悔む所
小彼矢背つて討渡されざる軍兵も、這て逃歸りて有り、次第と言上りたる所を
備へ、遠く尾延の山に再び追兵とつけよと商議するも、軍列は公家
たれむ。左右長経、経目を送る内、忽ち大和の旧都の田守居る高坂王より
飛檄至来り。大海人皇大分惠尺を使きて、軍勢催促の譯鈴を乞ひ、
皇子への忠義と存とて、其命小應せざる惠尺を追返し、急ぐ親王と御攻伐の
謀と廻されども、由りて御大事お及びい、
金連お商議。親王の御子高市、大津の両皇子と虜おせんと、武士と差むけ
くれども、是も早急延ゆ、後おれも其甲斐なく、其上江州濃明勢、明おの
守獲職より、親王の御勢強大おたむ、由りて、時、刻、お経進するも、櫛の齒
と挽か、如くなれども、大友皇子以外お敬篤たゆ、群臣と集て仰せたるは、九時

救と忘りて、叔父親王と討渡し、東國へ走り、
今更後悔、胸と咬も返すも、今己小東國の諸軍勢も、叔父の軍と枝け、此
都へ攻上ると謀るより、今都小軍勢甚く寡し、され敵の大軍と防ぎ、
その是と如何とを分れと、色と斐じて、仰ぐれを並居る公卿も、列位恐怖と
懐て、顔如葉一言も弁とも人か。時小孫我赤兄進出て、
親王大軍と領して、攻上り、
以て叶い、唯奇兵と以て、其不意と、
敵の押上るを、道筋不伏兵を、
防衛の勢と、
軍勢と召上せ、
と御同意あり、
近江美濃尾張ホの守護國司へ、伏兵の謀と傳られ、湖辺乃

船と艘も残さむと取隠。瀬田の橋板を取放して別ふ長た板とけ。敵徒
渡らむ網を切く水中へ落し塵おせん構へ此方の岸に乱抗逆茂木殿
少皇子方方の剛将と安ん。大同智尊といふ者お二千余騎の兵と授く
橋際ふ屯せしれ諸韋那公盤鐵書直業忍阪大森呂三人を東海道へ
差向て東國筋の軍勢と廻募せ。又穂積五百枝。泰友足物部日向三人
を和州へ遣て國人木の勢と催促させ。諸西海道へ樟盤手。穂積百足兩
人を以て吉備の廣嶋河。藤栗隈。太友金鳥佐伯連男。其共四國西國乃
緒將を召募らせり。曾て皇子東西の使者令して。若九下知を拒む募ら
應せざる者あむを即座斬て捨よと嚴く仰渡されしを武臣の面々領掌
して各都と啓行せり。少受場の國へ赴たる。かゝる程に滋賀の都の
騒動大方あむ。是はとも如何なる世なかり行更あやと貴賤とも安ん心かく

公卿いねけく小落行もあむ。民農人を妻子眷族と將私財を運びく東
西南北小逃さるよ上を下へと及く。茲小くうけて御痛くれ。大友皇子
乃后妃十市皇女の御身上たも局命婦が覚めて。御父親王の危急を救
すめしむ。己小親王と皇子と敵の色と顔しひ。ト世の強と威小
これむ皇女在あむ。あれね御物おりの中の方な。彼方父君なり。此方良
人か。何とが勝何とが負。しても御身一降る。身とあむ。雨の雲向なく
御衣の袖も朽る。世は憂との小思困。て御歎小の。明く暮させのひ。さ
彼白居易が辞も人生て婦人の身となす事勿。百年の苦樂。他人小侍と
賦せ。皇女の御身小思ひ合され。人々御心根と推量。小袖とと絞りたる
京将西國募勢。并金鳥称虚病欺連男
西國向ひ。宣使の内彼穂積百足と豊後國小池下り。先鶴崎の城到り

佐伯連男小對面して十餘、今般大海人親王東國勢を暴り滋賀の
都へ攻上んとの結構あり。己小衆名を御免足たし、ぬりて都へ落万よ
り急告る。更にもきく、今皇都小、林平兵不勢あり、防禦御難義也
兼て御辺を大友金鳥皇子の両翼も頼り、思召とてろたれ、急死
金鳥と示談し、斤時も早く上洛して都城を衛護し、敵徒を伐亡さる
小於ハ格別の御恩賞有る、と言々多し。連男も、點首某も東國都
の強乱を承り、及び、わあ、御加勢の準備仕たり。大友金鳥も某
と同意なるを、公を我此城内より休息し、又某白杵、弛到りて金
鳥と面談し、同時上洛仕る、と、いふより、百足斜あも、喜び如斯
ら、我又何を患を疾く、白杵、到り、火速上洛する、計れ、れ、急
が、連男承伏し、即時小郎黨三十人、許を従、飛馬小鞭、加、金

鳥が居城白杵、どうも、且、統大友金鳥、先年上洛の節、大友皇子の御
夢物語を承り、より、急、急、急、狼の欲心萌、是皇天皇子の、以、我小
一天下と、与、吉、吉、吉、得、手、勝、手、の、判、断、を、付、さ、る、皇、子、の、鴻、恩、を、忘、却
し、國、を、飯、り、後、の、時、小、味、荷、擔、の、者、と、さ、る、一、只、管、時、節、を、規、ひ、運、小、兼
て、一、天、四、海、を、併、吞、せ、ん、と、謀、叛、の、跡、を、固、め、世、の、動、靜、を、見、合、し、る、小、己、小、大
海人親王、芳野を、落、し、東國小勢を、集、め、都、へ、攻、上、る、と、の、風、説、隠、り、
何、と、か、世、上、強、が、る、れ、金、鳥、心、中、小、大、小、歡、び、須、波、や、我、用、運、の、時、節、至、来
せ、る、と、お、り、れ、大、友、皇、子、敗、軍、と、自、滅、あ、れ、よ、り、然、を、我、兼、て、一、味、合、鉢、せ、り、軍
を、九、州、勢、を、驅、催、し、大、友、皇、子、の、吊、ひ、軍、と、唱、て、都、城、へ、攻、上、り、大、海、人
親、王、を、一、戦、お、伐、亡、し、ぬ、り、無、名、の、軍、あり、と、勝、利、の、上、に、諸、人、小、厚、く、
恩、賞、を、与、ふ、を、自、盡、緒、將、歸、伏、し、四、海、我、堂、中、の、物、と、なる、を、一、と、空、願、

只皇子の敗績たる久しと祈り無道なれ佐伯連男の金鳥が斯度心
甘くと勢くあつて面談して皇子小脚加勢せんものと探ふんで白杵乃城
弛著斯と案内しなれど金鳥心中小思ら。佐伯が来りて我を勧めて
皇子の加勢をせんとの変わる。我今何を狂忽く兵と動さつれ幸
う小腰小の腫物生じなれど是小托けし瞞れ帰さんものと俄小居間乃
裡小衾褥と布殺髪と乱し鉢巻しめてお目侍女と側侍しめ宿近習思
以く佐伯小言せたるハ邂逅の未臨何妻の要用久知といとも金鳥頂日
癰疽を奈し疼痛極く強く病床小苦しいを對面しつて妻が能く不
敬の罪を免しよとたり。近習主命のく演多れど連男案内相違して大
小心向某今日推忝せし等閑の要用久直小面談して高議とつた一
大事あり無礼なぐ年未無二の入魂なれを推て病床(忝)示談しと

命として近習案内させて金鳥が任房へ通りつた金鳥ハ佐伯が語るとん
るより故意さも苦げ小衾の裡小喚たあか痛や堪がやとく金妻を覚ぬ
体おとてかたれを連男ハ真の癰疽なりと思ひ肩と擧て侍女おむら
見やせし金鳥公珠の外病痛小悩も多体たれもやとて叶ふる一大事有
佐伯が推忝せしと通しなれといふや侍女金鳥が耳小口せ佐伯公の未
アも何と脚大事のゆり。脚痛と思ひ脚對面なりといふ言を金鳥眼
放開れ喘あが連男が面とんや故意声を弱せて佐伯殿免し先頃
より腰小癰疽生じて日我徑小徒の痛と増夜烈が如く居整うふ能くた
と。又眼と両面と皴めあ痛や此所按すと喚々ふど佐伯憫を近く侍
思ゆよと脚痛悩まると脚痛堪がういふも某今日忝し一大事と示談
仕んたつ。風鏡と泣はゆり彼芳野の親王脚練致ありて東國乃勢を

慕り皇都(攻上り)より由なれを兼て當今(の)庁院と頼あり久(脚)辺急死(脚)
加勢(弛)上(れ)れ(命)と。德積百足(公)王(命)と奉(り)其(が)居(城)ま(り)下(向)せ(れ)
と(り)然(る)ふ(脚)辺(く)病(苦)小(惱)め(を)自(分)の(出)馬(ハ)叶(め)ま(り)れ(を)連(多)幸(脚)
契(約)中(十)當(天子)脚(一)生(懸)命(の時)臨(脚)加(勢)あ(る)ま(り)不(忠)の(至)り(且)
後(日)の(脚)処(り)針(れ)れ(と)し(脚)出(馬)せ(れ)ん(更)叶(せ)り(も)臣(下)の(中)々(苦)
量(の)士(と)々(も)軍(勢)と(授)けて(名)代(上)洛(せ)れ(其)も(手)勢(を)尽(して)道
り(と)と(と)退(引)か(る)ま(り)言(れ)金(鳥)脚(を)服(と)用(た)か(る)處(理)の(當)
然(る)我(此)腫(物)か(る)脚(使)か(る)一(番)上(洛)せ(れ)ん(も)身(動)か(ら)ぬ
た(力)か(り)折(わ)く(重)幸(者)も(無)賊(防)禦(の)も(太)宰(府)へ(差)遣(し)れ(都)
城(上)と(る)程(の)郎(黨)あ(る)ま(り)返(り)殘(念)あ(る)脚(辺)先(上)洛(せ)れ(其)内(亦)
我(腫)物(少)く(亦)痛(和)か(る)九(州)の(緒)將(羽)擡(を)廻(し)軍(勢)催(促)を(脚)加

勢(小)さ(上)ま(り)脚(辺)歸(り)百(足)公(我)病(悩)の(義)傳(り)れ(且)又(筑)後(國)阿
蘇(栗)隈(當)家(と)親(し)縁(体)と(し)我(兼)て(亦)會(し)義(も)あ(れ)ん(筑)後(一)
脚(越)あ(つ)栗(隈)を(勸)め(上)洛(せ)り(傳)れ(り)言(も)終(む)又(も)煩(悶)と
牛(の)喘(ぐ)と(喚)々(と)佐(伯)の(命)代(上)洛(せ)り(其)も(隨)分(自)愛(し)々
保(養)と(加)わ(り)亦(も)痛(薄)か(る)九(州)の(緒)將(令)傳(貴)所(亦)上(洛)あ(ま(り)
切(と)殘(し)本(意)か(り)座(と)ま(り)鶴(崎)の(城)を(飯)り(々)
樟(般)手(討)吉(備)廣(邦)阿(蘇)栗(隈)賺(百)足(一)
總(積)百(足)と(俱)小(大)友(皇)子(の)命(と)蒙(り)て(軍)勢(催)促(の)も(西)國(へ)向(せ)樟
般(手)吉(備)國(備)後(と)三(つ)分(り)弛(下)り(吉)備(廣)邦(が)居(城)到(り)大(友)天(子)と(り)
脚(使)の(言)入(せ)々(れ)廣(邦)其(意)と(得)れ(り)先(客)館(に)請(入)り(對)面(し)
其(未)臨(の)意)を(問)々(る)小(盤)手(言)々(り)今(度)大(海)人(皇)子(吉)野(を)援(後)て

東國へ逃下り軍勢を逼集て都を攻伐あらん其結構つた王城ハ殊の外ハ
無勢なれ其を西國へ軍勢催促せり依て先當國小著當城未
まろ急だ國中の勢を逼聚都へ脚加勢のさる軍。太平の後を重く忠實易
脚沙汰有るを相演々る廣邦中々々八仰する所願る其意を得じ
今年正月元日大海人親王(皇太子)の宣旨下り大友皇子ハ太政大臣小任せ
られのまじり己お諸國へ觸渡され民間末々の者まじり是を承る所なり然れを
大海人親王ハ太子わく大友皇子ハ臣下まじりませむ先帝崩脚たす
上ハ太子天位を嗣せむふんをふん其脚沙汰かく大友天子の脚使
と承るまじり不審の兼なり今大海人天皇東國ハ勢を聚都へ攻上りる六君
とて臣下の罪を伐めなれ是順とて逆を伐なり又大友皇子ハ臣とて君ハ
引寧ろん義を逆とて順を伐めて理叶けせむを速小先帝を改め

干戈と伏て君を迎へん臣の節を守りるまじり道まじり命を兵革
の強ゆかり万民塗炭の苦を免とい命と悼るはかりヤ々盤手先より論
をまじり曰脚使京師遠た邊鄙の人なれ朝廷の季曲と及なれ不審の
儀論一應むかり去あがる能まじり先帝脚登霞の砌大海人親王脚讓位の
知命有るも彼人脚多病かりて讓位の義を脚辞退あむ脚出家と願ひ
ゆい小依て即ち勅許あて望お任せれ王位ハ大友皇子へ授けり是小依て
大海人皇と號装珠數を賜りて芳野へハ皇子ハ九五の天位を受めん程
かく先帝崩脚りハ君臣諒闇小籠り且公勢繁多あむ遠國へ觸
渡りも又違かた内ハ彼大海人親王俄小謀叛を思ふ芳野を忍落る東國
へ下りる軍勢を募りて都へ攻上ると企らむれ今上已事と得じ防戦の備
をかりのん脚使なれ疑念をまじり早く詔命お從ひ脚加勢のさるべと

訂を尽すと鏡鏡一々も廣邦尚も承引せむ。否とよ天下ハ一人の天下ハあり
と。天下の天下けりと承引れむ。且太子の宣旨と蒙りし。大海人親王とこそ
人皇四代の君なりと万民仰知所なり。天下の知所即ち天子なり。先帝崩御乃
際の際中の密使ハいざと。且大海人皇太子の勅授有る。手の裏とまじ
如く俄ハ大友皇子ハ御讓位あえり。且又彼大海人親王莫ハ御多病ナリ
立太子の宣旨下りし時と御辞退有る。其砌を宣旨と受りし。先
帝御登霞の際ハ臨み。多病ナリと御讓位と辞退し。多皇子細く御成
る。御出家の望も。まさし。何ぞ俄ハ軍戦の御企ある。察し。先帝
御惱小迫りのハ人更と覚り。女御更衣ナリ。御遺勅有。大海人親王
何心ナリ受り。必と皇子方の奸臣ハ害せられん。更と慮り。多病ハ更も其
座の難と避り。ひりやを。是雷と恐て落し。曹操が難と避り。劉玄德

が智と一般より何ぞ親王を御謀叛とや。言放ちし。短慮の盤手勅
せ。とて大ハ怒。汝扁國の小臣の分際とて天子とまじ。社奇姪なと
違勅の天討思ひ。とせん。と。間もあ。と。太刀拔放して斬て。廣邦も
奮然とて太刀拔令。主客二人結つ。肉つ人難も。せ。火を散して斬結び
る。盤手と。大剛の者かれ。踏込。敵の數ヶ所の手と。肩せ。瘡む。処
を。難。廣邦と斬倒。此太刀音ハ廣邦が郎黨。追
座敷へ。つけ。主人を。朱。倒伏。皆。大。當の敵。通
と。五六人。拔連て。斬。盤手。些。動。折戸。後。植。多
を。對。手。ハ。者。未。大。音。呼。盤。手。從。者。未。け
未。リ。斯。と。大。勢。拔。連。主。從。廣。邦。が。家。人。を。殘。と。斬。伏。盤。手。ハ。馬
曳。せ。各。白。刃。を。振。て。城。を。出。中。の。者。其。勢。ハ。辟。易。し。



吉成廣國



廣國の弟小磐手
 劍を揮て竟小
 廣國と研は

吉成廣國

維支んとする者多しを盤手至從亭と城を出穂積百足と一千のあつらん
と豊後の國を馳行多る盤手が挙動短慮あが武辺不於天晴鳴呼乃
者と縋つる。儲まゝ佐伯連男八友金鳥が虛病小購れとくくと白
杵の城を出ぐ鶴崎の城へ敵り百足小對面一金鳥が病氣の義とくくと
且粟隈の吏と告ぐれ百足も當惑し斯て狩明を盡ると之を向邊す
手勢を率して都へ下れよ我を筑後不到り粟隈を催促して後より馳
上る處と約定し其身ハ筑後を馳行多る佐伯はそれより兵卒と龜集め
出馬の準備をなす所小樟盤手遽く鶴崎へ近きりたるおと連男大
かゝるに迎へ今對面し吉備の動止を問ふ盤手彼廣邦が口不應せざる
以て行ぐ捨百足と高議せんぬ當城へ來れと百足亦當國へ來るとや
とのおと佐伯金鳥が癱痛少く出馬叶はざる由をくるとこれ百足公ハ筑

後の粟隈を催促せんぬ彼國へ赴く吏と結ぐれ盤手も頼切る金鳥が
患病をばく力を落しぬれ筑後へ到りて百足小面會をもとめ詮なり
我を是より中國四國の軍勢を催促せんぬ佐伯小別を告中國へ赴く
儲も穂積百足ハ筑後國ハ阿蘇粟隈が居城へ到り對面を乞ふれぬ
粟隈ハ智慮深れ者なれぬ早く大友皇子より加勢を乞ふ使者力り吏
と知しりとも對面せざるも如何とも先客館へ請ひ自分立出く對面し寒
暖の挨拶畢て後何吏の御用有て來臨去りしやと問百足が曰某當城
へ下りて來りし先達邸出家の願を乞ふ芳野へ入り大海人皇令へ俄俄小
御謀叛を思ふ東國へ下り軍勢と龜集京城へ攻上る企む一然小都ハ護
の軍勢寡少某當今の勅宣を奉る西國の軍勢を催促せんぬ先客館後
國小下り佐伯連男と催し次ハ大友金鳥を促すと知折悪く金鳥ハ癱痛の病

小因へ出陣叶も即ち金鳥と親れ縁者と以て兼て我君の御大事小付て
亦合され義も有よりて。御加勢の義を申談せられ由金鳥が勸依て来り
より。火急小勢成集一刻も疾く上落せしむる。刻は相演々西平儀具
小圃く心中小嘲く。彼金鳥は己が兒馬未田を暗害し其家督を押領し我
小巧と知られんを恐を懐が今度都の兵乱を幸小我が皇子の加勢を自滅せ
とせんと兼て亦合せ有る。跡形を偽言を以て百足を欺れ當城へ
未せ奸計を思はれ。浅計たる詐謀かて小兒をも欺く。心小
笑と隠し。儲百足小向の仰もて。金鳥と其親族の間小は。彼が兒馬
未田が死亡の後互小疎遠小なり。音信を通せ。金鳥と面會も休づれ。且
示合せ。あまの義八毛頭無之。其先免れ角すれ。先達ての紹令小大海人
皇八皇太子小より。大友皇子太政大臣小任せられ。承り及ふ。今仰ら

其小於を不審し。難れ百足答て。其如斯くたりと。前小般血手
廣邦小説て。演舌。只管加勢の義を勧め。栗隈少時考る。や
中。仰の如く。大友皇子天位を受嗣せ。私たをていふ。いふせん。其が
先祖より此國の守護を奉る。西戎の龍象。来ん。その備をて。朝廷乃倫命と
奉る。心かり。今皇子の御頼。不時の義たれ。即ち上が。斯中。此年来
新羅の賊百濟を攻取。頃日高麗を伐取ん。合戦止時。對州を高
麗近を圍たれ。日夜異國軍戦の鼓角の音。喧く。聞。白由。小より。九州。二。小
何時異賊の攻来。小量。と。皆不虞の備忘る者。心む。國を空虚。不
上。落。難。王命。と。貴將。遙。下。向。有。て。御頼。た。れ。是。中。
黙止。命。不。見。隣。國。の。輩。と。會。合。評。議。の。上。左。右。も。仕。る。を。貴將。を

備更故なく野上小御着陣たせせりなれど高市王斯と安めひく和斬と
弁足野上の御陣(糸上)の御親子御對面ある親王大御喜悅すりて
御子小向せむ江州の都小左右の大臣をまめ智謀武勇の臣下數多集れ
む必定嚴重の軍ををむと命し今朕小從諸將新小地加り者もあれど
いふ其心腹計がうれれ大事と議せん者寡し是を如何と布れ是朕が
患ともる処かりと宣ひをれ高市王完示と亦笑ひ宣旨さる更ふいれ彼
藤我赤兄中臣金連巨勢果安が輩ハ利を好む富を貪る小人小く更小
軍戦の役小まき者も其の武官智略あつとも天道小背く大友皇子の
無道を扶る罪天神地祇の惡を受亡人更必定小古令天小順入者存
天小逆入者亡とせり君仁義と昔より天是と助まるとの危急と
免れぬ今小大軍靡從ひなるハ聖運を問さる瑞相小御勝利何の

疑ひるる夏祭王無道なりと湯王是を征せんとも東面して征し
と西夷怨と南面して征し北狄怨と仁義の師八万人是を慕ひ
仰され無道の敵を伐ん小勝とて更いれ大友方の軍卒何百万
騎有とも利を先ともる無道の戈鋒何と怖る小足ん九智浅く短くと
以て天照太神の神威を頭小頂れ諸軍と將て逆徒を誅伐し領て君を
万葉の富位小即もる堂小あり小宸襟を煩ひ夕ををると弁舌
滔々として流水の如くも激く奏しひれ親王大御感あると其言
と撫めひいも中々も小只仁義と昔より殺伐を専とせむ民の塗炭と成
ひい今日より汝を大將軍小任とせりと深く麻衣賞し小御太刀を
置さる御馬を賜りたる小高市王謹て拜領ありて厚く君恩を謝し
其後諸將を集て御軍議あり美濃國の内小東海道の咽喉とす切

関と建高市王を大將軍と大津王を副將軍と此所を圍め世小此國を
不和の関と号々々是大海人親王と大友皇子叔姪の脚中不和なるより建高
関を呼ぶなりと後不和不破の文書に書ける。諸相隨士諸將も
紀阿阿之官多品治村國男依和珙部君平藤我安名大分惠尺逢志摩
其余八紀と違わむ。軍勢都合三万余騎野小満山小蔓り庭嶺雲の如
其軍威強太て諸人固と後まことと者なり。是亦依て今迄京方小心を傾
革も親王方の猛威小辟易していま二合も戦いさる小降参と者日夜絶回
されを血脚勢弥増々々茲小大和の旧都の留守と預る高坂王六前小親王の脚
使大分惠尺まつ軍勢催促の彈鈴を乞。節小大友皇子小心と寄と彈鈴
を借よとが頃日親王東國の軍勢と衆集己小美濃國と出張の一日
夜小脚勢弛加る。遠近是がさる小震の動をさる大分恐怖心中思ひさるハ

豈計らん彼親王六虚弱の脚性皆て大隻を起さるなり。その精衛砂と脚と
東海を埋んとさる小比。逆も功を遂る事能ふと思ひ彈鈴を借進せさる
小今々。數万の大軍を得るんと斯有。我先小彈鈴を借もさる。其憤
の此國へ一番小勢と向らん。治定なり。不如敵軍の押寄さる。以前小罪と
謝降参して身の難と免れんと。俄小聘物を調へ使者小齎して野上なる
親王の脚陣へ参り。七前の罪と謝して降参を乞せさる。小親王方の諸臣是を以て
嘲。い。彼高坂王先小王命と拒。彈鈴を借もさる。今脚軍威の強
大なり。さる小辟易。身の殊戮と免れんと。手の裏を及と如。楯下の降参を乞
こと可咲々。只使者の首と劔と降と好。のら。軍の手始小高坂王を伐下。更
と参。さる小親王身を宥め。い。汝達の中。其利有と。い。古人も過さ。女も
悼。さる。力れと。縋。渠。己。小。先。非。を。悔。改。し。降。を。乞。上。さ。る。先。の。罪。を。責。む。と。言。ふ。こと。

建高市王の事

仁の道なるを。昔孔明益獲を七度擒めて七度是を討せしとや。今某が
罪を責て降を許さし使者を斬りて京方の諸士朕を降参せんと思ふ輩の朕が
免をすれど危ぶむ志を翻て皇子の為小力と尺一拒敵せむ味方の戦い難
義あるん。朕が今般皇子と征せんとも。只天下の人民を安んぜんとおりの拒敵
者已更を得む是を誅とも降る者罪有るも是を免とを。高坂王の
降参を許し聘物を納め使者を殺しめこれを諸臣も君の寛仁大度を感し
リたり。斯て高坂王の使者を殺して降参御免有る由と報りしを。高坂王大
悦び五百余騎の兵と將を野去御陣参着。親王御親子小拜謁して先づ
を謝せり。御勢弱と加り多。此事を聞傳へ親王の御仁心を慕ひなり。大友皇
子小心を傾け推狭王とも。其の余の諸將親王方へ降る者多し。愈御勢増小
多。是偏小親王の仁恕小も処て。道と得者ハ助多の本心も思合れり。

春種財攻高安城 久采塩籠戦死

茲小祐宰相春衝ハ又春道死去の後身と耻て病と称し河州古市小引電り
小先帝崩御せり。程々天下の擾乱起り。大海人親王東國小兵と聚り。近
の都と攻め結構中。まこと由をば熱心中思惟。々々元彼大海人親王と先
帝の弟君。天性寛仁の君なれと。先帝も皇子の大友君をさしわたり。彼
親王と太子小立させのひかれ。是深た慮慮中。まをたる。然る小朝廷乃
大臣等自己の利を計り。大友皇子小勧め推て帝位小即せんと。親王を
ちと謀り。是篡逆の罪人なり。大友皇子ハ文武の才小長。小の御心悍
く。天下と治り。言ふれん。先帝も臣下の列小加。ひのた。大海人親
王の御味方。忠戦を励む。と人臣も者の道たる。一と首と定め。日嗣石
川郡の領主坂本賊と兼て交り深。渠が宿所小ゆる。當時の時勢と儀論

親王の御味方小糸人等を結り多し。賊も素り親王方へ属せんと。サリ新柄を大い挽ひ。俱小高儀を固め。銘々家人御民を龜集。濃州野上乃御陣へ参りんと。密々其準備をなす。小口高安の城を預る。来目塩籠ハ無二の皇子方たれ。敗春衝ホク親王の御陣へ馳加らんと。用意をなす。是も暗怒り。其義なきを。我皇子の忠戦始。彼兩人を討つ。首と都へ参りんと。是も暗小合戦の用意をなす。内通の者有て。此義と密告。賊小告。告を参りて。賊大。小糸ら。春衝を招け。塩籠が義を結り。是ハ如何と。参りて。議ま。春衝。是動。是。何ぞ。恐る。小足人軍法。先ん。時人を制。先ん。せ。時人。小制。せ。と。縋り。敵。小用意。整。内。不意。小。今夜。高安の城。夜討。一。小。城。を。乗。取。人。更。難。急。死。準備。と。か。の。一。と。敗。実。も。と。急。小。兩。人。も。家。人。を。集。め。西。勢。合。て。百。六。十。余。人。民。具。并。と。固。め。

人々を救を衝き馬ハ轡と縛り。高安の城の搦手。夜の三更の頃。小糸。ハ。俄。拒。火。を。と。り。と。開。と。と。と。弁。城。門。を。破。て。乱。を。入。れ。思。け。け。城。中。の。者。も。寢。耳。小。開。の。声。を。や。り。仰。天。大。將。塩。籠。を。首。と。し。慢。れ。と。士。率。も。早。太。刀。と。ひ。の。周。障。狼。狽。多。く。鎧。を。も。着。せ。と。強。或。二。内。寄。兵。も。早。此。所。彼。所。小。火。を。け。り。と。頃。日。久。雨。降。む。乾。切。と。小。屋。も。烈。と。燃。と。黒。煙。城。内。小。充。満。と。是。小。依。て。女。重。六。興。声。小。驚。馬。煙。小。喧。と。泣。叫。び。男。子。も。一。驚。を。と。り。敵。と。防。ん。と。る。者。な。し。只。道。を。求。と。囚。ん。と。押。付。ま。れ。我。刀。小。傷。ら。も。多。り。来。目。塩。籠。ハ。小。鎧。一。縮。馬。小。糸。兼。と。竝。出。し。早。城。中。一。面。の。火。と。なり。煙。の中。小。興。声。の。安。の。許。と。敵。何。百。騎。有。も。知。れ。心。惑。ひ。か。士。率。と。呼。ぶ。大。手。の。方。鬼。出。味。方。小。知。を。傳。と。在。多。知。小。祐。春。衝。並。来。つ。火。の。明。小。大。將。塩。籠。と。ん。て。多。れ。大。音。小。

それより八當城の主将末岡塩竈と見え、僻岡祐春、衝大海人親王の牛
土産小汝が首と所望せんと呼り、馬を獲て、近寄れど、塩竈大い怒り、奥
の燈臺鬼とせられ、日本の耻辱と遺せ、腰痺の悴、春衝と小汝も、昔公家
の分際とて、叛逆人の親王小荷擔たる、國賊天討の程を思ふせんと、馬を
向せ、太刀を揮て撃てり。春衝父の醜名と挙げられ、怒心頭より起り、重て向
谷小も及ぶと、迎合と太刀を合し、一往未と挑む戦、素素り、武術小秀、春
衝、太刀風烈く、塩竈あらしひ、受太刀小つて、已小危く、んえり、此間、塩竈
が家子、草毛と見者、けまつと、主を隔て、春衝小斬てり。春衝大い怒りて
草毛と戦ひ、いま五合め、草毛を二刀小斬し、落し、此間、小塩竈と馬
拍く、逃行多ふ、端かく坂本、賊と行合、双方名乗りて、戦ひ、小塩竈、遂小賊
か、小討と、いふ、不意を伐、ま、周障せ、城兵、大将と討と、いふ

全うする、誰一人敵小當んと見者、かく只道と奪て、逃ん、親討られ、顧
む。子、仲も、お捨て、炎、焼と、煙おひせ、途と、矢と、討と、者、數と、或
生捕と、又と、降参り、手小、敵、おかり、れ、賊、春衝、令と、傳て、女、重、八、逃
ま、小、捨、置、せ、僅、二、百、騎、ま、五、百、余、騎、竈、と、城、と、兼、取、大、將、塩、竈、を、と
討、と、り、れ、兩、將、手、始、と、焼、ひ、城、中、の、火、と、鎮、ま、せ、大、小、凱、歌、と、奉、ま、せ、一、息
つ、た、る、内、夜、と、ま、り、と、明、お、る

河州惠川合戦并壹岐韓國討坂本財

斯て、賊、春衝、高、儀、一、塩、竈、が、首、と、塩、小、浸、し、使、者、小、持、せ、美、濃、の、御、陣、へ
い、せ、脚、味、方、小、扇、と、な、り、な、れ、う、と、羨、し、勝、軍、と、報、り、塩、竈、が、首、と、手、と、た、り、
親、王、御、感、有、て、兩、人、へ、脚、太、刀、と、賜、り、ま、す、然、小、泉、州、大、鳥、の、群、主、壹、岐、韓、國、
と、り、入、者、八、大、友、皇、子、の、恩、顧、の、者、な、れ、也、財、春、衝、が、高、安、の、城、を、攻、取、塩、竈、と、討

取しとて大不敬馬た急小伐平げむんを敵小勢加り征難くんと火急小
軍戦の準備し其勢六百余騎より當麻へ出高安の城を向ひたる其由
早く高安へ告えられ坂本賊春衝小議して曰韓國ハ武勇の者小塩籠が
小あしむ此小城不在敵と待んや半途へ出く一戦小踪散しあ人卿ハ此城
残守のとやふと春衝然るると同意と是小依て坂本賊千の者と降泰
サ兵を合して四百余騎と引平し高安と歩きて敵小向ひたる小韓國と早
衛我川の西岸中出張したるが賊も川の東小屯し互小白眼あてたり
川を渡り戦んとしれも頃日の霖雨や水嵩まるとも山水小赤く濁
り川の浅深も知されも緒平らうる小渡り得む具東岸小賊が積兵弓矢
をわぶく備へ川を渡さむ射落さんと待体あれも愈踟躇してわたり韓國

大不怒り斯許の小川水増らると何程の更う有る我小續や者どもと
厚板の楯と斤手小被れ馬小拍合く川中へ颯と蒐入小馬足のまざる程あ
がれ緒率是をさぐ緒さの深もあさると皆一各小射向の袖を連ね
鏃と傾け川へ入く渡らう東の岸小待致る賊が射入も是を見く鏃
を並べて散く射まとも韓國更もせも持する楯小矢小防の鏃と傾け
馬を遊せし先小進み渡らうと續く緒率も主小励まれ雨より志がれ矢
を恐まきと押さう矢を肩者も少くされ難く物勢東岸小蒐上り喚叫
て進むより賊が士率其勢小辟陽五七下退れ隊と数千と迎戦ひたりえ未
韓國ハ高麗國の産物小齊力尋常小勝まり岡の者かれも大太刀真向小掃
して當ると幸小難で廻り瞬く内小敵八人斬り落し十二人小手を肩せられ
其奮勇小怖を力坂本が千の者用れ籠て敗走らう賊是とるく憶病



なる者どもも多し。韓國とて天魔鬼神あてはるあり。返せくと呼ぶもの耳も
くはど乱れ。敗大も怒り。言用斐なれ。奴原うあいて我韓國と一太刀合さん馬
と兼出。大音小如何や。韓國弱率とち捨て。坂本賊と雌雄をうる。魚とて呼
れむ。韓國耳も田て後と顧む馬と返して。賊が方歩ませ来りたるふ。賊渠
を怒らしんと高き。汝韓國慥も承れ。ゆる君と頼む。大友皇子ハ先帝の勅
命も悖り。且人臣の列介身と以て。君脚惱小迫り。又期小臨む。太子大海人皇
追退け。自ら推て十善の帝位と犯さる。ハ是天小逆。無道人なり。それ天小順
者も存。天小逆者亡と。汝今無道の皇子小属とる。ハ是天小逆。くく己と
身然じ。我好むむ。夏の虫の死と知む。火入か。如く思の甚。うねと縋る。わ
早く罪を改て親王小降参。しなれ。後を幸小天誅を免る。奄と雲々。ハ韓
國勃然と怒り。黄馬の孺子何と多言なや。とも我大友天皇ハ先帝の白皇子ハ

て我も文武兼備。しり明君もあれ。皇太子小立せ。ふこと公道なり。明月
も浮雲小先と覆る。如く後者君と申暗す。賢智の皇子とさ。それ徳
もた。能もた。年齡闇とる。大海人皇を太子小立。しむるといふ。是順道小
非。ら。汝以て先帝崩脚の際小先罪と改む。ハ彼親王ハ出家入道。願
勅免ありて。改て皇子小天津日嗣の宝位を讓らせり。是宮中宮外とも小
緒人の知如かり。我も親王先帝小奏せ。言と食佛道を捨て。叛逆を
企。万民を塗出。小陷まじ。無道此上や有。我汝と罪を改て。大友天皇
小降参せし。鞍坪敵て。言返。ハ。敗大も笑ハ。実や禁が。大を亮と
吠る。ハ。汝が。更よ。所経耳聾。小向答無益なり。天誅の速。わ。我刀下小
知を。ハ。太刀拔。さ。馬を拍て。撃て。わ。韓國勃然。怒し。ハ。太刀を
振て迎。合。一上。下。右。小。左。小。拂。ハ。人。雜。も。せ。と。戦。ハ。更。三。十。余。合。い。ま。

雌雄を争ふる外、敗れ運や、今も人分心持する太刀鐔根より、あつきて
折るも、心慌指添と、抜んとする小韓國得うと、太刀を挿して、敗れ鎧の綿
咬より、斬下と、太刀と業物なり、斬人々、大カ多れ、鎧あがり胸板を切下り
さうもの、敗れ此痛、手小堪得と、馬より、逆小唾と、後々々、我、韓國が郎黨うけ
来り、抑て首と、場ふる、大将を討と、高安勢、大カ力と、後、我先、中
道と、求て、敗走と、然、壹岐が、兵平、大浪の、如く、追討し、サ、ひく、小、取、高
名、十分、小、勝、凱歌、三度、発り、少、時、息、と、休、め、韓、國、勝、小、乘、勇
互、此、機、を、抜、む、高、安、城、を、攻、め、拔、よ、と、令、ま、た、れ、勝、誇、り、兵、平、も、勇、進、
た、と、鉄、城、わ、り、も、一、舉、小、搦、破、人、と、隊、も、整、と、無、二、無、三、小、と、地、行、々、
春、衝、淡、海、勸、義、兵、并、藤、原、勢、出、陣、准、備、
高、安、の、城、中、小、八、祐、春、衝、坂、本、敗、が、勝、敗、如、何、あ、ら、ん、と、追、く、午、候、と、出、て、合

戦の申すと、窺ひ、むる、其、軍、敗、が、敗、平、と、俱、小、這、く、の、体、お、て、逃、げ、り、大、將、敗
壹、岐、韓、國、の、為、小、討、也、敵、軍、當、城、押、寄、き、う、れ、と、注、進、し、々、小、と、春、衝
大、の、小、孩、死、斯、て、當、城、要、害、淺、間、か、上、軍、勢、僅、二、百、騎、小、足、と、迎、も、籠、城
せん、と、叶、を、う、ず、且、城、を、捨、て、敵、の、末、銃、を、避、重、く、策、と、定、め、韓、國、を、討、
敗、が、壘、を、耐、む、を、と、火、急、小、落、支、度、と、鎧、備、城、上、小、八、紙、簾、紙、簾、を、多、く
と、お、れ、大、勢、の、籠、る、体、お、と、て、午、掃、手、と、り、と、落、行、々、壹、岐、韓、國、の、斯、も、ま、い、
搦、小、と、んで、高、安、へ、弛、着、城、より、一、里、此、方、小、隊、と、猪、軍、小、兵、糧、を、つ、る、各、息、と、休、め
一、も、城、攻、八、明、日、と、定、め、其、夜、の、野、陣、小、箭、火、多、く、焚、き、各、敵、夜、討、を、う、る、更、も、
と、軍、率、の、甲、冑、と、解、き、と、用心、嚴、く、二、夜、宿、陣、し、翌、朝、未、明、の、起、り、兵、糧、と、は、
先、午、候、と、出、て、城、の、体、と、窺、ひ、む、其、者、と、取、り、城、上、小、旗、簾、を、多、く、立、物
と、音、と、鎮、々、籠、り、と、報、り、韓、國、さ、も、有、勢、と、そ、勢、と、二、平、小、八、自、真、先、小

高安の城中小八祐春衝坂本敗が勝敗如何あらんと追く午候と出て合

馬込進り頭、大手の堀際まで押せ、貝鉦を鳴し、陣を嚙と突く。城中の息を
鎮めて、鯨波をのこせ、れは、儲謀計を設け、るゝんと疑ひ、るゝ小寄、りたる
韓國は、敵城の体と、るゝ小薙、薙まき、建れ、るゝ樹木、小薙、鳥雀の、れ、啼
轉り、るゝ、儲謀、るゝ、るゝ、体、れ、るゝ、敵、の、弱、卒、早、く、風、を、吹、ひ、く、落、矢、を、ち、り、指
預せ、び、攻、詰、て、乗、入、り、と、下、知、れ、るゝ、逸、男、の、者、も、我、先、の、ま、ま、行、猪、垣、引、破、つ、
城、戸、餘、寄、者、も、敵、猶、箭、の、筋、の、射、出、せ、れ、い、よ、く、空、城、か、るゝ、と、て、城、門
を、破、つ、るゝ、乱、入、の、案、案、の、ど、敵、入、り、か、り、るゝ、味、方、と、さ、招、我、此、城、の、番、乗
せ、り、と、嚙、と、突、ひ、るゝ、れ、韓國、諸、卒、を、引、り、城、乗、入、大、小、腹、と、三、斯、と、ま、昨、日、攻、寄
るゝ、り、小、手、延、小、か、て、春、衝、と、討、洩、せ、と、殘、念、な、れ、後、悔、と、れ、るゝ、甲、斐、方、を、れ、其、日、ハ
城、内、に、と、留、り、るゝ、却、統、祐、春、衝、の、高、安、の、城、を、落、し、吉、市、の、邸、飲、り、るゝ、小、隨、從、
兵、卒、頼、少、と、思、ひ、入、途、中、より、拔、れ、小、離、散、し、殘、るゝ、僅、六、十、余、人、小、過、され、此、小、人

數と、以、て、韓國、と、合、戦、し、及、入、吏、八、叶、り、孰、考、るゝ、大、織、冠、鎌、足、公、の、御、嫡、男、藤、原
淡、海、公、御、又、小、方、も、れ、智、智、の、人、か、るゝ、先、帝、崩、御、た、り、後、攝、州、三、島、退
れ、るゝ、ひ、身、病、を、名、と、と、大、友、皇、子、も、仕、と、芳、野、の、親、王、も、身、と、寄、り、るゝ、い、ろ、あ、る
賢、慮、小、や、量、と、と、我、彼、卿、小、統、勸、て、親、王、の、御、味、方、さ、せ、出、陣、を、促、し、韓、國
と、伐、ん、と、思、慮、を、定、め、腹、心、の、郎、黨、一、人、將、連、て、攝、州、三、島、赴、れ、淡、海、公、の、館、推
糸、し、姓、名、と、通、じ、と、案、内、を、と、るゝ、淡、海、折、り、在、館、あ、り、て、春、衝、か、るゝ、通、と、と、
仰、々、と、執、達、の、士、斯、と、春、衝、小、告、引、り、客、館、伴、ひ、多、れ、淡、海、程、か、り、出、て、對
面、あ、り、一、別、以、未、珣、と、や、春、衝、蟄、居、の、予、玆、紡、ひ、未、れ、何、更、の、要、用、あ、る、と、
向、り、春、衝、低、頭、し、某、更、鎌、足、公、の、高、恩、と、擔、ひ、ひ、を、平、日、小、御、起、居、と、も、伺
ひ、るゝ、るゝ、先、帝、崩、登、霞、の、後、何、い、か、り、世、上、穩、か、るゝ、諸、人、の、疑、を、擧、り、即
訊、問、を、忘、り、し、罪、脚、仁、魚、賜、り、其、今、日、御、館、推、泰、仕、り、一、別、の、義、小、い、か、り、此、度

親王皇子御才府の強だ出来。緒人の心都東國分り小君此御領小引
の沖も寄ごと礮も著。時節と御見合あり如何なる御賢慮ふひやと
尋すもえん為ふゆと申され。淡海歩點首不審む。先考鎌足末期小
予と近づけ申され。天智御萬歳の後大海人皇と大友皇子
必御不和となり世の強とかる。然とも皇子八天理小背より千小一も
御利運有る。徐安用とて朝廷事奉む大友皇子大事小荷擔
せよと勸めらん。治定なり。若彼君小隨身せむ。不臣の名と稱りて身と
亡一家名断絶と爲り。又其命小應せむ。事小托と刑せられ依て予
が没後ハ病と稱り。攝州の領所小引。籠世の動静と見合。大海人皇と
大友皇子御争の兵革起らむ。大海人皇と扶けおせ。世の強亂を鎮め
と。遺言せられ。後ハ患病と披露。當所小

籠居して世の動静と窺ふ。又の先見符節と合さる。如。先帝御登而殿
ましくて未だ玉指も乾かざる。早く兵乱起り。親王の御味方小参り
と。既ハ軍卒と招れ集る。足下ハ疾親王の御味方小属。来月塩
笠と討取。由祖是と中。今日未。れハ予と親王方小勸人。為。な。さ。し。や
と申され。春衝意中と見透され。膝を拍て感嘆。御賢察。忍入
尊余の如。親王の御味方小参り。坂本敗。と力と合。塩笠と討。高安城を
兼取。坂本敗。惠川の戦。壹岐韓國。が。為。小。討。兵。卒。敗。散。り。
不勢。城。を持。堪。が。鈍。と。城。を。捨。て。御。館。推。参。仕。ハ。脚。助。刀。願
ち。ん。為。ふ。ゆ。と。申。され。淡。海。緒。ハ。予。が。家。子。小。疾。出。陣。の。用。意。細。く。日
韓。國。を。征。伐。を。命。其。時。小。出。會。せ。れ。有。る。春。衝。斜。め。を。況。ひ。斯。る
上。ハ。又。何。と。慮。り。小。命。を。脚。出。陣。と。待。受。再。會。な。さ。し。と。約。定。

猶種々軍議をあり遂に別を告て春衝ハ古市(と)叙リタス

河洲葦池合戦 金倭討壹岐韓國

斯て後藤原淡海ハ家士勇里金倭印部真足深水尻生(と)瓜集
て軍議(と)兵士二十余騎(と)驅集三嶋(と)奔足(と)河洲(と)出張せしる(と)佐春
衝大(と)喜悅(と)手勢百余人(と)從て淡海の陣(と)弛加(と)面湯(と)高安城
を攻る軍議(と)定め先(と)在候(と)遣(と)敵(と)動靜(と)窺(と)却(と)宛壹
岐韓國(と)手も濡(と)高安城(と)兼取(と)敵(と)寄(と)多(と)支(と)待(と)多(と)小(と)忽(と)
當麻(と)より急馬(と)来(と)近(と)野(と)野(と)武士(と)堂(と)結(と)殿(と)乃(と)御(と)留(と)守(と)の(と)虚(と)小(と)兼(と)
て館(と)攻(と)る(と)支(と)急(と)疾(と)歸(と)陣(と)有(と)告(と)多(と)韓(と)國(と)大(と)不(と)愕(と)然(と)斯(と)
叶(と)と(と)高(と)安(と)城(と)を(と)燒(と)拂(と)て(と)敵(と)の(と)足(と)溜(と)る(と)中(と)小(と)針(と)以(と)手(と)勢(と)引(と)當(と)麻(と)弛(と)敵(と)
リ(と)多(と)淡(と)海(と)の(と)作(と)候(と)高(と)安(と)到(と)り(と)窺(と)ふ(と)己(と)の(と)城(と)を(と)燒(と)原(と)と(と)り(と)敵(と)入(と)も(と)無(と)れ(と)

弛歸(と)て(と)斯(と)と(と)回(と)報(と)を(と)淡(と)海(と)に(と)當(と)麻(と)押(と)寄(と)て(と)韓(と)國(と)を(と)誅(と)伐(と)せん(と)春(と)衝
と(と)兵(と)馬(と)進(と)て(と)當(と)麻(と)へ(と)向(と)れ(と)多(と)是(と)より(と)前(と)野(と)韓(と)國(と)ハ(と)士(と)卒(と)と(と)勵(と)當(と)麻(と)弛(と)敵(と)
リ(と)野(と)武(と)士(と)も(と)多(と)散(と)る(と)所(と)藤(と)原(と)淡(と)海(と)佐(と)春(と)衝(と)と(と)俱(と)ふ(と)多(と)勢(と)攻(と)未
し(と)や(と)え(と)ん(と)何(と)程(と)の(と)更(と)有(と)人(と)途(と)中(と)弘(と)向(と)一(と)戦(と)蹴(と)散(と)る(と)と(と)留(と)守(と)乃(と)備
嚴重(と)構(と)進(と)率(と)六(と)百(と)余(と)騎(と)引(と)率(と)和(と)別(と)葦(と)池(と)に(と)押(と)往(と)處(と)敵(と)軍(と)前(と)途
に(と)進(と)来(と)れ(と)と(と)報(と)を(と)多(と)此(と)所(と)に(と)せ(と)て(と)葦(と)池(と)を(と)前(と)ふ(と)て(と)陣
と(と)張(と)る(と)藤(と)原(と)勢(と)も(と)敵(と)間(と)近(と)来(と)り(と)多(と)三(と)十(と)町(と)絆(と)隔(と)陣(と)互(と)小(と)戰(と)書
と(と)贈(と)り(と)軍(と)六(と)日(と)と(と)定(と)め(と)多(と)然(と)る(と)其(と)夜(と)淡(と)海(と)春(と)衝(と)を(と)伴(と)ひ(と)葦(と)池(と)の(と)辺
に(と)岡(と)山(と)を(と)登(と)り(と)敵(と)の(と)陣(と)營(と)を(と)見(と)渡(と)し(と)折(と)り(と)十八(と)日(と)の(と)月(と)明(と)み(と)出(と)て(と)畏(と)む
ん(と)を(と)守(と)り(と)多(と)能(と)く(と)見(と)積(と)り(と)春(と)衝(と)を(と)顧(と)て(と)多(と)韓(と)國(と)武(と)勇(と)の(と)名(と)を(と)皮
ぬ(と)れ(と)軍(と)術(と)小(と)疎(と)と(と)覺(と)陣(と)營(と)の(と)備(と)淺(と)回(と)り(と)一(と)針(と)を(と)抜(と)て(と)戦(と)を(と)進(と)む(と)前

を得ん隻雞くもとと陣所へ取り預め軍の手配を定め明ると遅くとと
待と々々斯て程なく遠寺の鐘晨朝を告ぐれむ壹岐韓國六百金騎を
二隊に分てまふ一隊は時小貝鉦を鳴して押出ぬ藤原勢も三段小備先
陣ハ勇里金倭三百騎二陣ハ印部真足深永丸生三百騎三陣ハ大将乃
本陣少く四百余騎春衝ハ遊軍と成て弱れ方と扶人と百余人を四隊
ハ。本陣より少く一隊を隔て押出と去程ハ兩陣寄合して矢合の鏑矢
少く射るけ陣を奔て並合戦ひたるハ韓國を勇氣小修る火性の強將
あれむ先陣の合戦の雌雄をも見定む勢と廻ると敵の二陣真足丸生が
隊ハ驍勇を自ら真先馬と躍り大太刀と挿と斬り廻るふと藤原方
其勇銳小當りうの支度路も成てんえれ韓國勇人ハ須波敵浮足
かろとまろく後陣へうと淡海を討取ると下知し益積神と励すて

殺到しれむ真足丸生が陣堪るて乱と散く小敗走し樹林藪陰あど
逃入る韓國ハ逃る敵と追捨淡海の本陣へうと進み行処ハ春衝手
勢と引く近來り精兵と揃く散く小射る此處前先行くつと當り勢二三
人射落れ進るてんえれも韓國ハ吏もせむ味方を耻し先小走て
まろくまろく春衝あわらひるて逃散る韓國愈勝小棄敵ハ本陣
を伐んと馬次進る処ハ忽ち味方の先陣の兵卒三三人喘く近來り味方乃
大将鳥飼三石敵將金倭小討と戦ひ難義小脚返し有て救ひのり糸と
韓國驚れさむ連馬引返し味方を助んと並行小左の林の中より深永丸生
一軍と引く殺出し韓國降参せよと異口小呼り前路を塞て雨のつく矢を
散く小射る近小先小進一軍兵矢場小五十人射落され大ハ強れ走れ小又
右手の藪の内より佐春衝が勢起り是も韓國降参せよと呼りく後を

龍衣く矢を射けけるも。又さす射け合ふ愈乱と云韓圃大不怒り。射ける龍
とも恐むと云此生が勢小撃くを。無二無三小薙立はと延通て行処小又も前路
の葦葦の中より。印部真足一隊の兵と引け起り立撃するも。數度の戦小
疲果る當ハ勢途を矢く乱立後より深水春衝一手小成く追迫り。前後
より獲伐小攻立れ射ける者數多び其外重手薄手と肩言甲斐々者
とも八道を求る落行敵小生捕るも多し始四百余騎の勢も残少ふと伐
ふされも。韓國も昔前四五筋肩が。此も屈せと阿修羅維王の荒る如
く血小深く大太刀と歩揮く近付敵十四五騎切く落し八九余手と頃れ
む其奮勇小恐怖し路を用く避通くも。韓國殘卒と從てはと延
拔前面を吃とんちり。又敵軍土煙と蹴立り近來より是藤原家の
勇力臣勇里金倭が一軍なり。金倭ハ鎌足公小仕入庶妹伐の砌大功と云

當時淡海公小仕て二代の功臣と呼も。行年六十五才小及とも勇壯昔小方と
今日の戦ひも韓國が行腕と頼し。鳥飼三石と射取其余敵首百五十余級
を得敵卒八方へ逃散るも。天晴韓國が首と得るもと引返りも。端なく
此所より往合もね大不悦び馬と拍て延進も。へんえの六敵將韓國殿と
覺り。身ハ老れも藤原の御内小者。在と知るも。勇里金倭とハ我吏と
つと一太刀糸とんと呼り。韓國勅並く。半死の老賊我對手ハ足ぶ共
韓國わりの者と太刀と合さん。心もあし。此世の暇をとらせんと馬
次歩せ太刀と掃と撃てり。小金倭も。馬延寄太刀振鳴りて切流す
韓國虎の威を示せも。金倭も獅子の怒を。陰小寄陽小用れ戦す。三
十余合互小秘術の手と確れ。勝負と分る所。何回より射ける人一枝
の流矢飛來て韓國が左の眼小ごと。大事の手かれを馬上不堪む仰又



倒たふさと落おちると金倭きんわ續ついでて飛とぐ下くだりて抑おさめて首くび極きよく切き再び馬うまおち棄す大音おほなご小こ鬼神おにがみと呼よぶと壹いっ岐ぎ韓かん國こくを苗ひら里り金倭きんわが討う取とりて呼よび多おほく藤ふじ原はら方かたの緒いと軍ぐんハ蔽おほを叩たたき凱たい歌かと二ふた日にち小こととを奪うばつる麻あし戸まど勢せいハ至いたりて討う取とりて耻はをか知し軍ぐんハ自みづか截き其餘そのあ落おち失し又また降くだ参まり敵た徒た一人ひとりも成なれず緒いと將しやう本ほん陣ちんハ参まりて勝か軍ぐんと言い上あり韓かん國こく三さん石せきが首くびと先まず討う取とり首くび二ふた百ひゃく五ご十じゅう余あまり級きゆうを突つ検けん小こ備ひへ降くだ人生にんじやう捕とりて披ひ露ろ小こ及および多おほく淡たん海かい公こう緒いと軍ぐんの軍ぐん功こうを御ご賞しょう美みあり別わかて金倭きんわが勲いさな功こう拔は群ぐんかりとて鞍くら置ま馬ま小こ金きん造ぞうの太たい刀とうと添そて當あ座ざの廢ふ美み小こ下くだれ緒いと軍ぐん小こ兵へい糧りやうとけり其その夜よハ野の陣ちん小こ軍ぐん馬まと体ていめのみり

和州奈良坂合戦 大伴吹負謀略

和州石上わしゅういしかみ小住こぢと大伴吹負おほなつひ大海人親王おほうみ東國あづま小勢こせを集ありて安やすり御味方ごみかた小こ池い参まりと迫せまり邊への武士ぶし御士ごしを驅か催もと小こ凡およ三百さんひゃく余あまり人ひと小こ及および多おほく心こころ悦よろこぶ又また参まり

々々ささハ大友皇子おほともみこ推おして帝位ていゐを犯かり江洲かうしゅう及び五畿内ごきないの武士ぶしハ御味方ごみかた小こ参まり然しかる小こ僅わずか三百さんひゃく余あまり人ひとの小こ勢せと遠とほく野上のののの御陣ごちんハ参まりて路次ろじの敵た徒た小こ支さへられ見み苦くるに敗軍さいぐんせ入い支さ治ち定ぢやうなり當國あつこく高取たかとりの坂上さかみ熊毛くまがハ大身おほみといひ兼かて親王みまう小志こしと傾かたけし者ものかれを彼人あいつをうりて勢せいと合あて濃州のうしゅうハ参まりて又また親王みまうの上のうへ洛らくを待まち標め合あせて滋賀しやがの都みやこを攻せり兩條りやうじやうを拜らい議ぎの上のうへて定ぢやうじ合あり自身みづか高取たかとりへ赴まり熊毛くまが小對面せうめん親王みまうと皇子みまうの得失とくしつを論ろんし親王みまう御味方ごみかた小こ勸すすめられ熊毛くまが素もと素もと親王みまう方かた小こ属ぞくせんとせり折柄せつがらハ一議いちぎ小こ及およびす親王みまう御味方ごみかた小こ兵へい卒そつと驅集か布ふ田でん小こ出會いっしゆと合ありて約定やくぢやうとせり吹負ふきお斜しやめ手て悦よろこび後會ごかいと期きて石上いしかみと飯いり多おほく斯かくく坂上さかみ熊毛くまが領地りやうぢの武士ぶし御士ごしを催も促すせり七なな百ひゃく余あまり騎き小こ及および多おほく出陣しゅつちんの用意よういを敷しき吉日きちにちと撰せんて首途くびぢハ契約けいやくなり布田ふでんの廣野ひろのへ到いたり多おほく吹負ふきおも期きと違ちがひて三百さんひゃく騎きと引ひき延のび参まり東國あづまハ

行なれ都成や攻めんと軍議區くなく未だ一決せざるふ吹負が都へ遣は
間者馳ぬり吹負小むらひく親王の御勢濃州を奔走近日都へ攻上ると風
鏡一都の強動以外外いと狂進一々る小より然を東國へ向ふ益なり是より
奈良へ出く屯親王方と牒し合都を追手搦手より攻んと評議一決し
兩將の勢合と二十余騎布面と赤々奈良押行三笠山の麓乃野小陣
營と構て此一々る小宇津田守実亀 山本泉が子木兔若年十二才ながら馬の
道も租舟へぐる小又田守此度の出陣小連ざる本意なく思ひ甲冑をひぐ
し着し馬小乗中元小口とせて奈良の陣地到り又田守小對面しこれ
田守大小驚死你いま幼年多か初陣と免ざる小何と當陣へ来りや疾
敵宅せよと叱る小木兔若白脚叱さる事小何と武門小生と士子小余あが
今度の御供小後いも返く口惜いを御免はかりいも後馳小添りて何率

殿御願あやと軍の御供小召連のりいと長くや多れ田守小我子の幼年小
似氣なく健氣なる御を皮心中小脱ども伴と御あつ小賢るも中者るか
それ戦場の旋を進退とも大将又組頭の下知を守り進むぬれ小進退
くぬれ小退くと法と依り一身の高名と心かけ軍令と背く時ハ如何なる平
柄を為とも其途なく軍法小行るが兵家の常なり你幼年なりとも又の許
をも受と自恣小當陣へ来り是軍令小背たり且又平日言聞せりて
我ハ大伴馬来田公晋代の臣も君恩と被るも最深々れも主家の為小
一命と抛ぬれかれも已更と得と主家と金鳥殿小押領せられか余所
小んく安閑と月日と送る小大忠臣の本意小背たり是唯古主の君君世小
出りふれ時節と待んる惜くぬ命と存生て吹負公の御情と蒙り今日
やま身と全うせり然小今般の兵乱起りて吹負公親王の御味方なりと多ひ

金道史

斯御出馬あれむ我も此年月の御恩返し小戦場の御供せり。その武士の戦
場小向六義と金石より重んじ命と毫毛よりも軽んじると常とせられ合
戦の模様小より何時陣役を命れとも定めごと。依て我ハ古主の君君の世
小出のふを見まじ度も不定なり。你ハ我小たり代り弓馬赤物の技を励ま字ハ
身を全りして金道九殿世小出のひ。脚又の仇さる金鳥と一戦及より時一番
小絶参ト一命と君小捧て忠戦と励むことを織の忠臣といふなり。今度の軍師
供小漏るとも維り不忠なりといふ者あるや。此理を弁て疾く改まよと。それ
教訓まされむ。木兎君も理小伏し。誓む脚小随ひ引退小命。今亦あれ
君君世小出のふと承りて。其時と脚免と蒙り初陣仕るなりと賢く
約をつぐ本意かけ小きてまごく石上引返さると。なる者感ト。唇々々
りたり。且統滋賀の都ハ東國西國の軍勢いよと上る小親王方の大軍

己小濃列と奔足せりと風統とるふと上下色と多ふ如く。棋河和州ホより急使
追く小弛上り。藤原淡海軍馬と起と。壹岐韓國を討。檣洲の國人と招集
親王方小應じるとは経進。又高取の坂上熊毛石上の大伴吹負と心合。一カ
余騎小滋賀の都と攻め。奈良ま。出張せりと報とる小皇子方の入
大い小仰天。皇子も安らむと思。食文武の臣下と集り。且ハ如何と命れ。議
め小何人も當惑とて言と奔とる小。中臣金連進と出。曰。今親王方の
兵馬美濃と奔足せりと風統とる小。又淡海熊毛以下此都へ攻上。味方
前後小敵と受て防。禦甚と難義なるなり。先軍馬と奈良へ差向。熊毛
ホカ勢と伐散し。近江患と拂ひぬる。然る間小東國西國へ向。諸將小兵
士と募り。弛上り。と云われ。皇子実もと同意。のひさ。ハ奈良の敵と
追拂よと。田辺小隅。物部日向小七千余騎と援。兩將王命と畏。即日都

成打多々奈良(近行付候と出でて窺ひむる敵三笠山を後小とて
ひろの陣と張ひ其勢二千騎許とやいふを回報トくる。小隅日向是と
廣野小陣と張ひ其勢二千騎許とやいふを回報トくる。小隅日向是と
諸八陣より小勢なり。戦小蹴散さん安と。少時兵馬の脚を休め兵糧とつ
つせ先陣八田辺小隅三千余騎後陣八物部日向四千余騎敵小勢なりと
く侮り狂介押出と大伴吹負と京軍の多勢なるを尋常乃戦ひ
むる勝利を得ると熊毛と謀と定め宇津田守小三百騎と授て奈良坂
乃茂林小埋伏を。諸吹負三百五十騎と魚鱗小陣を先小進も熊毛三百五
十騎と田隊小なりして後小續れり。斯く兩陣金鼓を鳴り鯨波と奔て相
近付矢合まじや否互ふ物揮搦して挑と戦ひ々々京軍ハ多勢と持て
進退の調煉精しく吹負ハ敵の多し小勢なれども吹負小進退と
習ひ調煉熟し々々或は進も或は閑れたる代とをまねを右わつる千變万

化小戦ひ々々京軍案の外小猛り隊をけりて見えぬ田辺小隅大怒
了。斯程の小敵小追まらるる法やある。心と致し追取めて一人も餘守討取
よと呼つて自ら退く味方を鞭撃て勵ませぬ。是も機を整して威返
し大浪のちどくまらるる中吹負ハ伏兵の地へ敵を釣寄んと佯と色
めたるく敗走と小隅ハ謀計とも知ると突小逃ると思ひ須波軍ハ勝
しど此勢ひとぬぐ追う。鹿金小せと下知つた。緒軍隊も調を我先
むと追往ふ。坂上熊毛も吹負と示し合せ。妻なれ。俱山崩と敗走
し々々。物部日向敵の逃む心得むとや思ひん隊と動さを見合
居る。小隅が勢ハ敵の敗まが面白。前後の思慮も及む。我を
忘る。追行処小忽ち奈良坂の茂林の内より岡を唾と棄る。宇津田守
が伏兵一各小突出し。敵軍の後より會釈もた。収手立を思ひけり。

京軍大いおれ急小隊と立整さんとしを叶い周障狼狽さる成守
津田守得る賢いと自身真魁小馬成躍せ四入余の野太刀振鳴り當り
幸小斬る落を此太刀下小討る者十五六騎小及々れを京軍い乱し誰
踏んで敵小當んとする者わく右往左往小敗走ると田守が勢お立難
互敵と討更數あふと田辺小隅も後陣小更右と定て心おら死自是を
救りと引返さふ心ち右半の數乃中より大伴吹負百五十騎小て救出
短兵争心小お立ちふど是も不意と伐と周障敵軍の少少と定す
味方と押し逃んとて討る者麻のり物部日向先陣敵の謀小中
戦ひ難義なりと定されと迎緒勢小令と小隅を救んと近往処小奈良
坂の山陰より熊毛が軍起さく伐くくると日向味方と救小違は是
小當て挑と戦ひたり此時日己小暮小向れを熊毛もよれ程小戦ひ捨て次

弟小繰引りして山蔭引取れ日高も敵小伏兵わんと危と敢追ず小
隅を救んと馳往る小隅も敵の引成幸小勢と班て之を来と途中中往
合互小無更と税俱小元の陣場へ軍率と点檢とる小討る者五百余人
手負三百余人小及びれを安くと思ひ明日の合戦小敵と殺り及さむん此
耻辱と雪たぐとて両將軍議を凝り其夜小軍馬成休めり

葛籠山合戦 坂上熊毛戦死

大伴吹負坂上熊毛小勢と以て大敵と伐悩し首と得る更四百余級小及
々れを兵士皆勇と悦び京軍更勢かりとも怖る小足とこと言合々る吹負
熊毛と議さる今日の一戦味方奇兵を以て十倍の大軍と伐麻兼去小して
勝利を得るといふも寡小敵小難し難し明日の戦ひとて大事と某と
慮る小敵今日更と勢と折れを必定憤怒とて明日一舉小勝利を得ると

三軍心致一致。一足も引くと、劬を合て押来る。されば平場の戦ハ叶を
む。依て今宵の内、三笠山より登我兼て紙旗紙旗を多く用意し、
む。是と嶺小立陳、大勢隊、休小見せ敵寄来、下峯小射、
瘡む処、颯と伐、下至手、輝く引上、又寄来、射あ、て伐、下峯度
も如是して、悩まむ。見苦れ、敗軍を多、と言、れ、熊毛丸と承伏。其夜の
中、小三笠山、物勢より登り、用意の紙旗紙旗と峯の木、間小押、立明、と遅
しと待、小々、斯く其夜も、あ、と、明行、頃、早京軍、五隊、小、と、隊、位、を
綱、押寄、る、れ、敵、を、来、く、三笠山、より、登り、昨日、足、より、八、旗、旗、多、く、立
つ、ね、て、朝、嵐、小、吹、麻、各、勢、の、多、少、ハ、あ、と、静、まり、切、り、隊、より、小、隅、日、向、向、
々、ハ、敵、軍、山、上、小、屯、せ、ハ、如何、なる、計、策、なる、ゆ、れ、日、向、矢、く、是、敵、軍、小、勢
な、れ、味、方、の、大、軍、と、平、場、の、戦、叶、と、山、小、倚、く、嵩、より、落、し、伐、悩、ま、ん

為なる。又昨日より、旗旗の多、ハ、奇兵の謀、小、。只、旗旗の數、増、て
多、勢、の、如、く、ん、と、る、の、。突、小、軍、兵、増、あ、山、上、小、屯、せ、と、平、場、の、戦、を、な、と、ま、
小、さ、も、な、れ、勢、の、増、が、澄、かり、此、敵、を、破、入、難、く、と、我、兵、二、千、騎、と、三、笠、山、の
後、回、り、山、より、山、攻、寄、た、小、勢、の、敵、前、後、小、別、ま、て、防、ん、と、る、も、千、騎、小
足、さ、る、勢、な、れ、始、終、全、た、り、得、た、り、脚、辺、ハ、追、手、より、攻、登、る、勢、と、な、り、
く、攻、登、と、我、軍、後、の、山、廻、り、鯨、波、を、上、と、相、圖、小、楯、と、彼、つ、と、矢、を、防
た、三、方、より、攻、登、り、吹、負、熊、毛、を、討、取、ん、今日、二、戦、小、有、と、い、は、れ、小、隅、木、
悦、び、手、筈、と、合、し、先、二、千、騎、と、三、隊、小、分、金、鼓、を、鳴、り、岡、を、登、り、今、も、攻、登、る、
勢、と、示、し、残、る、二、千、騎、ハ、十、町、許、後、小、屯、せ、々、々、物、部、日、向、ハ、首、龍、山、の、方、勢、を、
向、た、れ、大、伴、吹、負、山、上、より、是、と、望、見、て、大、急、驚、た、噫、我、計、略、を、敵、小、見、達、
く、り、敵、勢、と、分、て、東、小、臨、む、此、山、の、後、廻、り、人、為、なる、勢、味、方、二、千、騎、の、勢、有

か防ん難くせん。此小勢を引きてを沖も防禦叶は。此所不安閑とて敵を
待ん。葛籠山へけ向の峠へ早く登りて敵を伐ん。六不如と三笠山へは難
を其終に置し。率少く残して貝鉦を吹鳴させ惣勢の屯する体小とてあ
熊毛と俱ふ九百余騎と引率。後の山の谷と越峯と過嶮阻難路を操
小操り進み行己。葛籠山の麓へ到る処。小早日向勢へ峠へ登り今打
下らんときる所を吹負遅らんと悔も其甲斐なく麓の原へ隊を立て敵
下らん一當あんと待りけり。物部日向是とて。是は何國の勢あんとて
敵小勢なれ。何程の更あんと。緒率小下知て二谷小坂とけり。番山の崩
くる勢となりて。鶯地へ伏せり。吹負熊毛も率り期し。更なれ。何と
少も猶豫なれ。九百余騎と三隊と力。関を突て迎へ戦ふ。互味方と勵
合一足も引む。赤合程小煙塵。八天日と曇せ。人馬の踏車り。足音。地軸を動

一峯鳴谷谷凄。わんども疎かり。然小三笠山小向。田辺小隅。日向が
相圖を待たれ。久々山後小鯨波も。更なれ。余小待り。びのや山
上へ攻上り。合戦せ。やと二千余騎と三隊。小先。強の兵小楯を被せ
三方より金鼓を鳴し。関を突て攻上り。れ。山上小残り。空陣と守る士
率も大。小敬馬。一助の矢をも放し。得て陣を捨て。這く。後乃山へ
逃住。己がさ。落小。寄兵。敵より矢も射。関をも合さ。ねと
研り。か。遂小嶺。登り。陣幕。引。を。紙簾。紙簾。を
く。置。の。や。兵率。入。在。り。れ。偕。空陣。かり。る。物。を。徒。小。守。り。
悔。一。さ。よ。と。赤。腹。を。た。る。小。葛籠山。の。方。小。當。り。幽。小。閑。声。や。あ。る。小。是
日向。勢。敵。と。戦。ふ。る。を。急。に。加。勢。せ。よ。と。嶮。阻。の。山。路。を。厭。ひ。こ
一。回。小。足。と。逆。め。操。り。て。鯨。波。を。ま。る。る。小。往。難。わ。く。山。を。越。磨。野。小

武田信玄公傳

昌籠山を曉く馳行々々此時昌籠山の林麓小西軍追つ返り騎が
一騎小なる追と喚叫や戦ひのまじり勝敗なき處小西軍が新手の
まじり吹負熊毛が勢の後より関を穿けて伐りやをえんむあれ小敵の
大軍小戦ひあはれまかれ此加勢の為小くけまられ足並支度路小山朋を五日
向ふ勢ハ味方の加勢小勇氣を増前後より狭く伐小難なるふど和別勢討
る者數多きを坂上熊毛も乱軍の中戦死すれ吹負も今更追とて己
小自殺せんとまきると宇津田守強く練め田守先小多し群る敵と難拂く
一道の血路に別れ主従十余人伴て落行其餘六討ま又を生捕は降泰す
も有て幸小立者もなく成日八已小暮くるをれ日向小隅勢と班の勝関を
奪り互小勝利と悦び討取首と檢る小熊毛と首とて五百余級とを記しける

大伴金道忠孝圖會後編卷之一畢

